

社会政策学会 Newsletter

- ◇ 学会本部 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 平岡公一研究室
URL:<http://www.sssp-online.org/> TEL: 03-5978-5246 E-mail: hiraoka.koichi@ocha.ac.jp
- ◇ 編集・発行 平岡公一(代表幹事) 首藤若菜(Newsletter 担当幹事) 森周子(事務局長)
- ◇ 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング
Tel: 03-5206-7431 Fax: 03-5206-7757 E-mail: world@med.email.ne.jp

《目次》

1. 第 132 回大会(2016 年度春季)のお知らせ
2. 第 132 回大会(2016 年度春季)大会実行委員会の挨拶
3. 第 133 回大会(2016 年度秋季)大会の宿泊予約について
4. 第 131 回大会(2015 年度秋季)報告
5. 第 131 回大会(2015 年度秋季)会計報告
6. 2015 年度地方部会・専門部会活動報告
7. 2014-2016 年期幹事会報告
8. 2016-2018 年期幹事会、第 1 回準備会報告
9. 承認された新入会員

1. 第 132 回大会(2016 年度春季)のお知らせ

社会政策学会第 132 回大会は、2016 年 6 月 25 日(土)と 6 月 26 日(日)、明治大学で開催されます。第 1 日の共通論題は、「変わる公共部門の労働」をテーマに行います。公共部門の現状、公務労働の変化に焦点を当て、公務員制度全体

をめぐる現状や政策動向を踏まえつつ、保育など地方自治体の労働の現場の状況や今後の展望について議論を深めていきたいと思えます。松尾孝一氏(青山学院)、黒田兼一氏(明治大学)、川村雅則氏(北海学園大学)、萩原久美子氏(下関市立大学)の 4 氏にご報告いただきます。

また、第 2 日は、テーマ別分科会、自由論題、国際交流分科会などを行います。報告の申込みはすでに締め切られており、テーマ別分科会・国際交流分科会には計 4 つの企画、自由論題には 23 報告の申込みがありました。すでに申込者の方には採択結果を通知しておりますのでご確認ください。さらに、今大会では新たな試みとして、若手研究者向けの教育セッションを開催する予定です。

(報告者の方へお願い)分科会・自由論題報告のフルペーパーは電子化されております。フルペーパーが用意されることで報告が成立するという点をご理解いただき、期日までにフルペーパーを提出されるようお願いいたします。レジメなど当日配布資料等は開催校ではお預かりしませんので、宅急便等により開催校に送付されないようお願いいたします。

(春季大会企画委員会 所道彦)

2. 第 132 回大会(2016 年度春季)大会実行委員会の挨拶

社会政策学会第 132 回大会は、明治大学駿河台キャンパスでの開催です。6 月 25 日(土曜日)が共通論題と懇親会、6 月 26 日(日曜日)がテーマ別分科会と自由論題です。

最近の東京都は海外からの観光客が多く、大会開催日の 1 ヶ月以上前に、便利で手ごろな価格のホテルは満室となっており、予約が不可能となるはずですが、なるべく早いホテル予約をお願いいたします。もし、東京都内のホテルの予約が不可能な場合は、たとえばさいたま市など、都内でなく、少し離れた都市のホテルをお探してください。たとえば JR 浦和駅から、明治大学駿河台キャンパスの最寄り駅である JR 御茶ノ水駅まで、電車で 30 分強で到着できます。大会出席に差し支えはありません。

このところの明治大学駿河台キャンパスは、大学関連かどうかを問わず、イベントがとて多くなっています。社会政策学

会の大会当日も、いくつかのイベントと重複する見込みで、人が多そうであり、ご迷惑をおかけします。どうかご了解ください。

土曜日は、学内にいくつかの食事場所がありますが、どこも非常に混み合うと思われるので、あまりお勧めしません。昼食を持参するか、近隣にある多数の食事場所をご利用いただくのがよいと思われます。日曜日は、学内はお休みですので、昼食持参か近隣の食事場所のご利用となります。

16 年前の第 100 回大会を明治大学駿河台キャンパスで開催したのは、私には昨日のことに思われてしまいます。時のたつのははやいと思えます。それは、私が老化したということでもあります。そのため、大会準備に何かと手落ちがあるかもしれませんが、そこはご寛容をお願いいたします。

(第 132 回大会実行委員長 遠藤公嗣)

3. 第 133 回大会(2016 年度秋季)大会の宿泊予約について

社会政策学会第 133 回(2016 年度秋季)大会は、2016 年 10 月 15 日(土)～16 日(日)に、同志社大学今出川キャンパスにて開催されます。

秋の京都は大変な混雑が予想されますので、学会では日本旅行西日本 MICE 営業部様にご協力いただき、ホテルを手配いたしました。

ホテルの宿泊予約をご希望になる方は、下記のリンクから

宿泊予約受付ページに移動して「新規利用登録」を行ってから、ホテルを予約してください。

<https://v3.apollon.nta.co.jp/jasps133/>
学会ホームページでも案内しております。

<http://jasps.org/archives/2591>

どうぞよろしくお願いします。

(社会政策学会第 133 回大会実行委員会)

4. 第 131 回大会(2015 年度秋季)報告

社会政策学会第 131 回大会(2015 年度秋季)大会は、10 月 31 日(土)、11 月 1 日(日)の両日西南学院大学(福岡市)で開催された。参加者は 250 名であった。開催事務局として運営面について振り返り、開催校報告としたい。

1. 開催校引き受けの経緯

今大会が九州地区で開催される順序にあたるということで 2013 年頃から開催の提案を頂いていた。力量面での不安があったため返事が遅くなったが、過去の開催事例を参考に実行可能性を検討した結果、最終的には引き受けることとした。

2. 大会規模と開催日程

開催校は施設面での余裕が小さく、土曜日にも授業(補講)があるため、土曜は共通論題・総会を開催し、各種分科会などは日曜に開催(午前、午後①、同②とも 6 分会)した。参加者数は会員 211 名、非会員 39 名の計 250 名であった。国際分科会には招待報告者 2 名が参加した。過去の大会に比べて少ない参加者数に留まった。

今大会の日程は例年より遅く設定された。前回大会から間隔を空けて各種作業に時間をとる必要があったことが大きな理由である。今から振り返ると、会員の念頭には大会の開催時期のイメージが定着しているであろうことや、本学会と関連の深い他学会の大会との関係から、できるだけ日程は動かさない方がよいのではないかもしれない。

また遠来の参加者には宿泊面での負担をかけてしまった。開催校の所在する福岡市でも、近年外国人観光客をはじめ来訪者が増加する傾向があることに加えて、大会当日に大型イベントがあったこともあり、ホテルの確保に多大な困難があった。また確保できては宿泊費が高くつき参加者には経済的負担をかけることとなった。

3. 大会準備・運営について

本大会では実務作業を業者に依頼することとした。委託先としては、本学の関連会社である株式会社キャンパスサポート西南(以下、CSS)を選んだ。本学会大会運営の経験が深い

点で AC プランニングにも魅力がある一方で、CSS は本学会での他学会の開催経験があることや費用面のメリットがあった。総合的に考えて CSS を選ぶこととした。

2015 年の年明けより施設の仮予約を開始した。その後も断続的に業務にあたっていたが、7 月から本格的に準備にとりかかった。その柱が出版社との対応と大会プログラム作成だった。企画委員会と連絡を取りながら、例年のスケジュールを参考に 9 月 14 日に会員へ送付することを目標に作業を行った。なお、準備については、各開催校が追記を重ねる引き継ぎマニュアルが充実しており参考になった。

大会の運営自体については、大きな問題は生じなかったと思うが、色々なトラブルで迷惑をかけてしまった。把握している限りでも、案内掲示が不十分(トイレの場所がわかりにくい)、領収証の不備(大会参加費と懇親会費の合計が印字されていた)、音響機材のトラブルと会場変更、また懇親会場が学外になってしまったことなどがある。他にもいろいろご不便があったのではないだろうか。あらためてお詫びしたい。

4. 懇親会について

事前申し込みは 69 名であった。当日申込みが 24 名あり、結果的に 93 名となった。前例や CSS の担当者の提案などを検討し単価 6000 円、100 名分の料理を発注した。参加者が総定数より少なかったこともあるが、会場から「サービス」してもらっていたようで、質・量とも比較的充実していたのではないかと思う。

事前申込の単価が 5000 円(学生 4000 円)なので予定人数が来ても赤字である。懇親会の料理は充実するよう聞かされていたのと、本会計からの補填を期待できたので「少々」の赤字は覚悟の上だった。ただしこれは後述するように支出面で幸運が重なった本学の事情によるものなので、あくまでも参考にとどめて頂きたい。

なお、会場が学外になったのは本学で利用できる会場に先約があったためである。その結果として参加者にはご不便をおかけし、開催校としてはバス代が余分にかかることになってしまった。

なお懇親会の司会は名誉会員の下山房雄会員が引き受けて頂き盛会であった。

5. 費用について

大会開催費(150万円)と広告出店料6万6千円の156万6千円で運営となった。最終的に18万円強の余剰が出た。支出のポイントの一つは、業務委託費が安く抑えられたことである。今回はCSSに幅広い業務を担当してもらい、そのスタッフと学生のアルバイトには大活躍してもらった。他のケースと正確な比較はできないが、工数の割に料金をかなり「サービス」をしてもらった。これには大学の関連業者であるCSSにとって本学教員が実質身内だったことがあると思う。もう一つは、施設利用料がかからなかったことである。これは国公立大学を中心に近年大会運営上問題になっているものだが、本学では徴収されなかった。以上のことから今大会の余剰は

開催校をとりまく環境と多くの人のサポートという条件で生まれたものといえる。よってこれは本学会と大学に寄付させてもらうことにした。

6. 総括

事前の準備や当日はCSSや学生のスタッフのサポートを受け何とか運営できた。また、他学の会員にも本部詰めのサポートをしていただき大変助けられた。他にも企画委員会や幹事会そして多くの参加者の方々にも助けられた。ここから感謝申し上げたい。

(第131回大会実行委員会 平木真朗)

5. 第131回大会(2015年度秋季)会計報告

本会計(円)

収入		支出	
大会開催費(学会本部)	1,500,000	プログラム・封筒印刷代金・送料	346,153
		アルバイト人件費	342,014
		スタッフ・ゲスト弁当代	55,600
		休憩室用菓子、飲料代	43,074
		文具代	81,677
		通信費	12,697
		交通費	129,600
		振込み手数料(864円×1回)	864
		業務委託手数料	248,400
		収支差額	239,921
合計	1,500,000	合計	1,500,000

コメント:本大会は事務作業のかなりを大学関連の業者に委託した。ちなみに会場使用料はかからなかった。交通費は大会会場から学外の懇親会場までのバス代(3台)である。収支差額の一部を別会計の赤字の補填に回した。

別会計(円)

収入		支出	
広告収入	66,000	懇親会経費	600,000
弁当代	64,000	弁当代	64,000
懇親会参加費	484,000	収支差額	-50,000
合計	614,000	合計	614,000

懇親会は単価6000円で100名分発注。本会計と別会計総額の収支差額18万円強は本学会と大会会場大学へ寄付。

参加人数詳細(人)

大会参加		懇親会参加	
事前振込(一般会員)	120	事前振込	67
事前振込(非会員)	3	当日参加	24
事前振込(学生会員)	5	海外招待報告者(国際分科会等)	2
当日参加(一般会員)	78		
当日参加(非会員)	23		
当日参加(学生会員)	7		
当日参加(学生非会員)	9		
名誉会員	1		
海外招待報告者(国際分科会等)	2		
招待講演者(共通論題、テーマ別分科会)	2		
合計	250	合計	93

学会への振込金額(円)

大会参加費:事前振込	315,000
大会参加費:当日申込	335,000
合計	650,000

6. 2015 年度地方部会・専門部会活動報告

■地方部会■

【北海道部会】

2015 年度の北海道部会の活動として、下記の日程で研究会を開催しました。参加者は 6 名でした。

日 時： 3 月 22 日(火)13 時 00 分～

場 所： 北海学園大学 7 号館 1 階 D101 番教室

- キム・ナレ(北海学園大学大学院経済学研究科)
テーマ「韓国における近代的社会政策の起源に関する一考察」
- 上原慎一(北海道大学)
テーマ「労働組合の地方組織の形成過程と組織化
—北海道の事例—」
(文責:片山一義)

【関西部会】

2015 年 12 月 5 日(土)10 時から 16 時 30 分まで、キャンパスプラザ京都(京都市)において、第 78 回社会政策学会関西部会を開催した。参加者は社会政策学会会員以外の方も含めて 32 名であった。以下に、報告者と報告テーマを記す。

午前の部(10 時から 12 時)

- ミルチャ・アントン
(大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程)
「1917～1922 年のソビエト家族政策:コロンタイの
「自由恋愛」論の特徴に関する考察」
- 瀬野睦見
(京都大学大学院経済学研究科後期博士課程)
「社会保険から見る排除の一樣相」

午後の部(13 時から 16 時 30 分)

特集「地域包括ケアの政策課題」

- 古川由佳子
(草津市長寿いきがい課地域包括ケアシステム
推進グループ専門員)
「草津市における地域包括ケアの現状と課題」
- 岡崎祐司(佛教大学)
「転換する医療制度・介護保険制度と
地域包括ケアの課題—ケア政策提言にむけて—」
- 佐藤卓利(立命館大学)
「地域医療構想と地域包括ケア
—都道府県と市町村の連携課題—」

午前の部では、お二人の若手会員より研究報告をいただいた。午後の部は「地域包括ケアの政策課題」を共通テーマとし、地域包括ケアを実践する現場から、草津市職員の古川さんより草津市の取組みを報告していただいた。佛教大学の岡崎会員からは、医療と介護にわたるケア政策の提言に向けて医療制度と介護制度の批判的検討がなされた。

佐藤報告は、地域医療構想のねらいと、その取り組みが開始され始めた京都府の動向を紹介した。

参加者からは、草津市の地域包括ケアの取組みについて、サービスの担い手として期待される「ボランティア」に関して、その性格と位置づけについての質問があり、また他の参加者からも他市にける「ボランティア」のあり方についての意見も出され、報告者との間で活発な討論がなされたことが印象的であった。

(文責:佐藤卓利)

【中国四国部会】

日 時： 2015 年 9 月 13 日(日)13:30～17:30

会 場： 高知県立大学 永国寺キャンパス

A(教育研究棟)403 教室

第 1 報告 田中 きよむ(高知県立大学)

「北欧型福祉システムとアジア型福祉システムの比較検討」

第 2 報告 中川 香代(高知大学)

「多様な労働者活躍のための労働時間管理と作業管理-計画性と弾力性の考察」

第 3 報告 長澤 紀美子(高知県立大学)

「ケアのアウトカム評価指標 ASCOT の意義とその適用をめぐる課題」
(文責:田中裕美子)

■専門部会■

【非定型労働部会】

2015 年度、非定型労働部会は全国大会でのテーマ別分科会と、例会を開催しました。詳細は次の通りです。

◆社会政策学会第 130 回(2015 年春季)大会・テーマ別分科会

日 時： 2015 年 6 月 27 日 12:50～14:50

場 所： お茶の水女子大学

テーマ：「非定型労働問題の諸相」[非定型労働部会]

座 長： 渡邊幸良(同朋大学)

コーディネーター： 伊藤大一(大阪経済大学)

1.柴田徹平(中央大学・院生)

「建設業一人親方の不安定就業層への再編過程に関する研究」

2.中野裕史(立命館大学)

「パートタイム労働者の職場要求と組織化」

3.河添誠(首都圏ユニオン)

『社会運動的な労働運動』発展のための論点

参加者は約 100 名でした。

◆社会政策学会第 131 回(2015 年秋季)大会・テーマ別分科会

日 時： 2015 年 11 月 1 日 12:50～14:50

場 所： 西南学院大学

テーマ：「グローバリゼーションの中での日本・韓国・ドイツにおける女性非正規労働者の労働と組織化：スーパーマーケットと介護職の事例を中心に(1)」

[非定型労働部会・日本・東アジア専門部会]

座長・コーディネーター： 横田伸子(山口大学)

1. 三山雅子(同志社大学)

「日本のスーパーマーケットにおける働き方と雇用構造」

2. 金星熙(高麗大学、ソウル労働権益センター)

「韓国のスーパーマーケットにおける労働の女性化と労働の不安定性」

3. 田中洋子(筑波大学)

「ドイツのスーパーマーケットにおける働き方と雇用構造」

参加者は約 60 名でした。

◆社会政策学会第 131 回(2015 年秋季)大会・テーマ別分科会

日 時： 2015 年 11 月 1 日 15:00～17:00

場 所： 西南学院大学

テーマ：「グローバリゼーションの中での日本・韓国・ドイツにおける女性非正規労働者の労働と組織化：スーパーマーケットと介護職の事例を中心に(2)」

[非定型労働部会・日本・東アジア専門部会]

座 長： 田中洋子(筑波大学)

コーディネーター： 横田伸子(山口大学)

1. 小谷幸(日本大学)

「日本の介護労働者の実態と組織化」

2. 横田伸子(山口大学)

「韓国における介護労働者の労働の実態と組織化」

3. ウタ・マイアー・グレーベ(ギーゼン大学)

「ドイツにおける介護労働者の労働の実態と組織化」

参加者は約 60 名でした。

◆社会政策学会・非定型労働部会 例会

日 時： 2016 年 3 月 6 日(日)14:00-17:00

会 場： 中央大学 後楽園キャンパス

テーマ：「障害者雇用の質的向上：取材、調査および

日韓比較を交えて」

座長・コーディネーター： 渡邊幸良(同朋大学)

1. 小山博孝(日本写真家協会)
「写真家が語る『障害者雇用』」
2. 江本純子(県立広島大学)
「障害者雇用による職場の変化とその意味」
3. 権偕珍(立命館大学・院生)
「QOLの観点に基づいた韓国の障害者雇用促進制度」

参加者は9名でした。

(文責:渡邊幸良)

【雇用・社会保障の連携部会】

◆韓国社会政策学会大会への参加

(社会政策学会・国際交流委員会より派遣)
社会政策学会第131回大会の日韓交流セッション(雇用・社会保障の連携部会が主催)の打ち合わせ、および研究発表

日 時: 2015年5月28日(木)から29日(金)
(研究発表は29日)

研究発表の論題:「21世紀社会政策の方向—能力主義的平等主義から非能力主義的平等主義へ」
高田一夫(一橋大学)

◆社会政策学会第130回大会・テーマ別分科会 「雇用・社会保障の連携部会」

日 時: 2015年6月27日(土) 12:50~14:50

場 所: お茶の水女子大学

テーマ: 「日本企業の市民社会化」

座 長: 石川公彦(明治大学)

コーディネーター: 高田一夫(一橋大学)

討論者1: 石川公彦(明治大学)

討論者2: 島袋隆志(沖縄大学)

1. 「日本におけるCSRの展開と未来」
橋村政哉(明治大学・院生)
2. 「EU諸国に見るコーポラティズム型CSRと
グローバル枠組み協定」
早川佐知子(広島国際大学)
3. 「日本におけるグローバル枠組み協定の締結背景と
その意義—労使の取組事例からの一考察—」
渡部あさみ(青森大学)

◆社会政策学会第131回大会・テーマ別分科会 「雇用・社会保障の連携部会」

日 時: 2015年11月1日(日) 9:30~11:30

場 所: 西南学院大学

テーマ: 「欧州の就労支援と所得保障」

座長・コーディネーター: 高田一夫(一橋大学)

1. 「スウェーデンにおける失業と社会保障制度の変化」
山本麻由美(北翔大学)

2. 「フランスにおける社会扶助受給者と労働市場」
小澤裕香(金沢大学)
3. 「ドイツにおける長期失業者と
ワーキングプアへの生活保障制度の現状と課題
—求職者基礎保障制度を中心に—」
森 周子(高崎経済大学)

◆同上・テーマ別分科会 (共催)

「雇用・社会保障の連携部会」「国際交流委員会」

日 時: 2015年11月1日(日) 12:50~14:50

テーマ: 「労働市場の流動化と貧困—日本と韓国」

座 長: 相馬直子(横浜国立大学)

コーディネーター: 高田一夫(一橋大学)

討論者1: 高田一夫(一橋大学)

討論者2: 垣田裕介(大分大学)

1. 「貧困の理論的再検討」
志賀信夫(大阪市立大学)
2. 「『第2のセーフティネット』と社会保障制度改革」
佐々木貴雄(東京福祉大学)
3. 「貧困理論の再検討: 社会科学と社会政策のための含意」
キム・ユンテ(高麗大学校社会学科)
4. 「貧困化過程における健康・障害・労働能力、健康保障
の含意: ソウルの住居不安定地域に関する事例研究」
チョン・ヘジュ(高麗大学校保健政策管理学部)

◆研究会 第1回(通算第20回) 「雇用・社会保障の連携部会」

日 時: 2015年10月18日(日) 15:00~17:30

場 所: ベーコンラボ京都駅

参加者: 10名

1. 「スウェーデンの職業訓練」
嶋内健(立命館大学)
2. 「21世紀社会政策の方向」
高田一夫(一橋大学)

◆研究会 第2回(通算第21回) (共催)

「雇用・社会保障の連携部会」「沖縄労働問題ネットワーク」

日 時: 2015年11月13日(金) 18:30~20:30

場 所: 沖縄大学

参加者: 15名

1. 「小売業における非正規労働者の組織化」
石川公彦(明治大学)
2. 「沖縄の非正規雇用問題について」
長尾健治(自治労連沖縄県事務所委員長)
(文責: 石川公彦)

【労働史部会】

2015年度は、秋季大会で下記の分科会を開催した。コーディネーターを小野塚知二(東京大学)が、座長を榎一江(法政大学)が担当し、大会2日目の午後を使って議論した。その内容は、『大原社会問題研究所雑誌』688号、689号に掲載されている。

◆分科会「職業能力の間主観的構造(1)」

—訓練、資格、報酬—

1. 「戦後における資格給の形成
—八幡製鉄所の事例を中心に—
禹 宗杭(埼玉大学)
2. 「フランスにおける教育・資格・職業能力の連関
—戦間期から高度成長期へ—
松田紀子(静岡大学)
3. 「三菱電機における職能資格制度の形成」
鈴木 誠(労働政策研究・研修機構)
予定討論者：清水克洋(中央大学)

◆分科会「職業能力の間主観的構造(2)」

—入職、選抜、処遇—

1. 「工業高校卒業生のキャリアと職業能力形成」
市原 博(獨協大学)
2. 「アメリカ企業におけるホワイトカラーのサラリー制度
:職務と報酬の関係についての歴史的考察」
関口定一(中央大学)
3. 「産業社会成り立期イギリスにおける能力差をめぐる言説
と入職・選抜・処遇」
小野塚知二(東京大学)
予定討論者：木下 順(國學院大学)

また、平岡代表幹事より、国際社会史学会会長から労働史研究者のネットワークづくりを検討する会合に代表者を送らないかとの誘いがあるとの連絡を受け、労働史部会で検討し、世話人の榎が会合に出席することにした。6月16日、スペイン・バルセロナ自治大学で開催された会合には、ヨーロッパ労働史ネットワークを中心に、カナダ、アメリカ、オーストラリア、ブラジル、インド、アフリカ、日本の関係者約50人が集まり、Global Labour History Network(GLHN)の立ち上げを決めた。さしあたり、日本の窓口は榎が所属する法政大学大原社会問題研究所としてGLHNに参加することにした。労働史研究者の有意義な国際交流につながれば幸いである。

(文責：榎一江)

【総合福祉部会】

日時： 2016年2月28日(日)13:30~17:00

会場： 京都府立大学、附属図書館

テーマ： 「人口問題と家族政策」

報告： 1)杉田菜穂(大阪市立大学)

「日本における優生—優境主義の展開と社会政策」

2)藤田菜々子(名古屋市立大学)

「スウェーデンにおける『人口問題の危機』と普遍主義的福祉政策の形成」

3)深澤敦(立命館大学)

「フランスにおける人口問題と家族政策の歴史的展開」

コメント： 田中弘美(同志社大学大学院 社会学研究科)

社会福祉学専攻 博士後期課程)

座長： 上掛利博(京都府立大学)

杉田は、人口問題と社会政策史の日本の特質を明治時代以降の史実を掘り下げ報告した。「優生—優境主義」というのは、健全な生、優れた生は、遺伝子だけではなく、養育環境や教育によって生み出されるという考え方で、これが原型としての家族政策を中心とする生活政策に影響を与えたという。日本では1910年代以降、人口の質をめぐる議論が盛り上がり、少子化論、母性保護論、産児調節論、社会事業論、社会衛生論、児童保護論、女子教育論等として展開された。以後、日本でどのように人口問題や人口政策が検討されてきたかについて時代をおって報告し、社会政策の重要性を指摘した。

藤田は、スウェーデンの普遍主義的福祉政策形成に貢献した経済学者 G・ミュルダールの人口論・人口政策論を、1930年代のスウェーデンの社会状況をふまえて報告し、イギリスと比較した。大恐慌後のスウェーデンでは、人口をめぐる保守的出産奨励主義と積極的な産児制限を説く新マルサス主義が対立していたが、ミュルダールはこの両方を批判し、「消費の社会化」を唱え、「予防的社会政策」として普遍主義的福祉政策の理念を提唱した。この方向性が、当時「国民の家」構想を練っていた首相ハンソンらに受け入れられ、理想通りとはいかなかったが、政策に活かされていった。深澤の報告では、古くから人口問題が課題となっていたフランスの少子化の一因として、18世紀末に「長子相続制」が「均等相続制」に改正されたとの指摘が印象的であった。子ども数が多ければ、生産手段である土地が細分化され農民が貧困化し、出産が抑制されるからである。また都市部では、新マルサス主義の影響から貧困のために子を持たない労働者世帯が多く、少子化が進行していった。さらなる人口減少の危機を感じたフランスでは、20世紀になると政府内外で人口問題が多角的に議論され、宗教家やナタリスト達が多子家族を擁護する運動を繰り広げた。このような人口減少に向き合う歴史の中で家族政策が充実していった。

その後、コメンテータの田中からの質問を交えて討論され、主に次のような意見が出た。①ベヴァリッジ報告の未婚女性の職業訓練手当の意味について、②人口問題や家族政策は「少子化」だけでなく「高齢化」も含める必要がある、③「福祉国家レジーム論」という国際比較は、歴史を踏まえた社会史比較に発展させると重みがある、④人口問題・家族政策を社会政策学会でも今後、真剣に議論してもいいのではないか。どの報告も質疑も中身が濃く、紙面の都合から十分に紹介できず残念である。なお、参加者は19名であった。

(文責：大塩まゆみ)

【ジェンダー部会】

2015年度は春季大会のジェンダー部会において、春秋の大会以外の研究会開催の要望があり、以下のような読書会を企画した。部会メンバー以外、また非会員の参加も募った。

社会政策学会・ジェンダー部会 研究会
日 時：2015年9月26日(土) 14時～17時
場 所：大阪市立大学 杉本キャンパス
(生活科学部棟 第7教室)
テーマ：家族政策を考える

所道彦著『福祉国家と家族政策—イギリスの子育て支援策の展開』(法律文化社、2012年)を素材として

上記のように、著者を囲んでの読書会として開催した。報告者は定めず、参加者が自由に論点を深める機会とした。著者への参加者からの活発な論点提起ならびに意見交換がなされ予定時間では不足するほどであった。

今後も同様の研究会を学会大会での部会開催と共に予定している。

(文責：服部良子)

【労働組合部会】

労働組合部会は、社会政策学会第130回(2015年度春季)大会において、分科会企画「労働組合の組織化をめぐる動向」を下記の通り開催した。

日 時：2015年6月27日(土)
座 長：鈴木 玲(法政大学)
コーディネーター：松尾孝一(青山学院大学)
報 告：1)「アメリカの公共部門労働組合の活動—教員と
家庭保育士を中心に」
チャールズ・ウェザーズ (大阪市立大学)
2)「建設産業における労働組合—組織と運動の変化」
浅見和彦(専修大学)
3)「1000万連合に向けて」
山根木晴久(日本労働組合総連合会)

分科会では、最近の労働組合の組織化活動の実態について、アメリカの公共部門の事例を取り上げた報告と日本の建設産業の事例を取り上げた報告がなされた。また、連合総合組織局の山根木晴久総合局長から、組織拡大に向けた連合の取り組みについて報告をしていただいた。その後、報告者と分科会参加者との間で、報告内容に関する活発な質疑応答が行われた。

(文責：松尾孝一)

【保健医療福祉部会】

保健医療福祉部会では、社会政策学会第130回春季大会にて、以下のテーマ別分科会を開催した。

テーマ：「社会政策としての医療政策：新たな研究を展望する」

日 時：2015年6月27日 15-17時
コーディネーター：松田亮三(立命館大学)
座 長：武川正吾(東京大学)
コーディネーター：松田亮三(立命館大学)
報告1：ヘルスケア政策と社会政策
猪飼周平(一橋大学)
報告2：福祉国家における医療機構類型論の新たな展開
松田亮三(立命館大学)
予定討論者：青木郁夫(阪南大学)

本分科会は、以下の趣旨で開催を行った。そもそも医療領域は、社会保険、租税、地方自治、医事など多くの社会制度が絡み合う複雑な領域であるため、常に具体的な課題が新たに生じ、社会政策領域における研究者はとすれば社会が直面する当面の医療の具体的な課題に集中されがちである。もっとも社会政策研究では、福祉国家における医療財政・供給・規制に関わる研究が蓄積されてきており、加えて、異なるケアの様式(フォーマル対インフォーマル、あるいはセルフ・ケア対専門的ケア)とそこでのジェンダー役割の差異に関しても議論が行われてきている。

しかしながら、これらは福祉国家における医療とは何かという問いを正面から明らかにするものとはなっておらず、それゆえ、医療が多くの福祉国家にとって重要な領域であるにも関わらず、福祉国家における医療について、新たな研究の視角や方法論を検討する機会が無かったといえる。そこで本分科会では、このような問題意識から、社会政策としての医療政策を分析する新しい研究視角を検討することを目的に、「ヘルスケア政策と社会政策」、「福祉国家における医療機構類型論の新たな展開」という二つの報告と予定討論を実施した。さらに報告に対してはフロアを交えた活発な議論がなされ、今後の医療政策の研究にさまざまな示唆を与えるものとなった。なお、本テーマ別分科会への参加者は約40名であった。

また本年度の運営体制に関しては、昨年度からの継続で、以下の形で実施した。

部会運営コーディネーター：松田亮三(立命館大学)
春季大会企画委員担当：長澤紀美子(高知県立大学)
世話人・幹事会事務連絡担当：藤澤由和(静岡県立大学)

(文責：藤澤由和)

7. 2014-2016 年 期 幹 事 会 報 告

【第12回幹事会 議事録】

日 時：2016年2月27日(土)13:30～17:15
場 所：立教大学12号館2階会議室

出席：阿部(彩)、居神、禹、埋橋、遠藤、熊沢、首藤、沈、鈴木、武川、所、平岡、平木、藤原、森、山田(篤)
欠席：阿部(誠)、岩田、大沢、垣田、松本、宮本、山田(和)、横田

議案

1. 春季大会実行委員会

遠藤委員長より、2016年春季大会(第132回大会)の準備状況について報告があった。

2. 春季大会企画委員会

所委員長より、2016年春季大会の状況について報告された。一般公開が望ましいと幹事会が承認した場合に共通論題のみ参加の非会員の参加費を低額に設定できることを再確認し、今回の大会について、非会員の共通論題のみ参加費を500円に設定することが了承された。

3. 秋季大会企画委員会

居神委員長より、2016年秋季大会の状況について報告された。

4. 秋季大会実行委員会

埋橋委員長より、2016年秋季大会(第133回大会)の準備状況について報告があった。また、平木委員長より、2015年秋季大会(第131回大会)についての開催校報告があった。

5. 学会誌編集委員会

阿部委員長より、小特集の原稿取り下げについての報告があり、この件に関わる委員長と代表幹事の対応を了承した。また、委員長と山田副委員長より、学会誌刊行の進捗状況と査読専門委員の活用について報告された。さらに、投稿規程の改定と執筆要領の修正が提起され、承認された。

6. 国際交流委員会

沈委員長より、2016年春季大会国際交流分科会の企画2016年秋季大会の日韓交流分科会の企画、2016年韓国社会政策学会大会の報告者派遣、2016年中国社会科学政策専門委員会学術大会の報告者派遣について報告された。

7. 日本経済学会連合

遠藤幹事(同学会連合評議員)より、学会ホームページから日本経済学会連合ホームページへのリンクに関する依頼があった。

8. 社会政策関連学会協議会

武川幹事(同協議会参与協議員)より、5月14日に福島にて開催されるシンポジウムの紹介があった。

9. 積立金を活用して行う事業について

平岡代表幹事より、積立金を活用して行う事業についてのワーキンググループ・メンバーからの提案・意見が報告され、引き続き協議を重ねた上で、事業の計画についての報告をまとめることとされた。

10. 2017年以降の春季大会について

平岡代表幹事より、2017年春季大会(第134回大会)に関して、明星大学での開催について下平好博会員の了解が得られていることの報告があり、明星大学での開催を了承した。なお、今後の大会開催について、首都圏の大学の会場確保、開催時期の早期確定の困難性なども踏まえながら、春季大会と秋季大会の入れ替え(春季大会の地方開催、秋季大会の首都圏での開催)や、春季大会の3月開催の可能性なども含めて検討していくこととなった。

11. 大会運営ガイドライン(仮称)の作成について

所春季大会企画委員長より、大会運営ガイドライン(仮称)の概要が示され、議論された。さらなる検討を経て、ガイドライン案を作成し、次期幹事会に引き継ぐこととなった。

12. 名誉会員の推挙について

平岡代表幹事より、名誉会員の要件に該当する会員のリストが示され、その中から5名が推挙された。また、最近退会した会員の中で要件に該当する方の有無を調査することとなった。さらに、名誉会員の選出基準についても議論された。

13. 入会申込書・会員登録内容変更届の記載内容改正について

森事務局より、以前、広報委員会委員より出された、学会員名簿の更新時に専門部会・地方部会所属を確認するという提案について、各部会の世話人と責任者に意見を募った結果が報告され、議論された。今後も引き続き検討し、次期幹事会に引き継ぐことになった。

14. 休会の取扱いについて

平岡代表幹事より、従来取決めが存在しなかった会員の休会の取扱いについて、海外長期滞在などの特別な事情がない限りは認めず、会員から休会の申出があった際に、その都度幹事会で判断することが提起され、了承された。

15. 学会事務センターについて

平岡代表幹事より、今後の学会事務センターの業務のあり方について、事務センター側と話し合いの場を持つことが提起され、了承された。

16. 入会申込者について：10名

10名の入会希望者について審議を行い、入会を了承した。また、年度末の幹事会で入会を承認された場合の会費納入に関する規定を定めるべきとの提案があり、あらためて検討することとなった。

8. 2016-2018 年 期 幹 事 会、第 1 回 準 備 会 報 告

日 時： 2016 年 2 月 27 日(土)17:30～18:00

場 所： 立教大学池袋キャンパス 12 号館 2 階会議室

出 席： 居神、埋橋、榎、遠藤、鬼丸、熊沢、鈴木、玉井、
平岡、藤原

欠 席： 阿部(彩)、阿部(誠)、上原、垣田、久本、宮本

1. 次期代表幹事の選出

選出幹事の互選により、次期代表幹事として、遠藤幹事を
選出した。

9. 承認された新入会員

氏名	所属名称	専門
遠藤 知子	大阪大学大学院人間科学研究科	社会保障・社会福祉
原田 玄機	一橋大学大学院社会学研究科	社会保障・社会福祉
宇佐見耕一	同志社大学グローバル地域文化学部	社会保障・社会福祉
松田 紀子	静岡大学国際交流センター	労働史・労働経済史
田中 良一	東京大学大学院人文社会系研究科	その他
菅原 悠治	立命館大学大学院経済学研究科	社会保障・社会福祉
李 玲珠	同志社大学大学院社会学研究科	社会保障・社会福祉
藤川 徹	筑波大学大学院人文社会科学研究科	労働史・労働経済史
武田 誠一	三重短期大学生活科学科	社会保障・社会福祉
木下 武徳	北星学園大学社会福祉学部	社会保障・社会福祉